

2024年1月のてがたんは申し込み制で開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、2月10日(土)で、テーマは「古い地図を歩く」です。ぜひご参加ください。2月1日(木)から電話での申し込みを開始いたします。なお、令和6年2月1日(木)～2月16日(金)【予定】の期間は工事のため、博物館への直通電話が繋がらなくなります。参加のお申込みは(04)7185-1111(市役所の代表電話)内線630へつないでもらってください。

市民スタッフのみなさま、次回のとがたん下見は、2月4日(日)です。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 → 釣り堀裏 → 遊歩道 → 藤棚付近 → けやき広場
- 観察日時と天気：2024年1月13日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：13名(大人10名、小学生3名)
- 市民スタッフ：4名(伊東茂子、湯瀬一栄、石原直子、北村章子)
- 博物館友の会スタッフ：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(岩本二郎)

観察した生き物の記録

*は1月7日の下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ* / カモ科：カルガモ、コガモ / カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ / クイナ科：クイナ、ヒクイナ*、バン*、オオバン / ミサゴ科：ミサゴ / タカ科：トビ、ノスリ / カワセミ科：カワセミ / キツツキ科：コゲラ* / モズ科：モズ / カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / ウグイス科：ウグイス / エナガ科：エナガ / メジロ科：メジロ / ムクドリ科：ムクドリ / ヒタキ科：アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ / スズメ科：スズメ / セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ / ホオジロ科：アオジ、オオジュリン

家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【昆虫】カマキリ目：ハラビロカマキリ(卵鞘)、チョウセンカマキリ(卵鞘)、オオカマキリ(卵鞘) / カメムシ目：ビワコカタカイガラモドキ、ヨコヅナサシガメ(幼虫) / チョウ目：シジミチョウ科の一種(幼虫)* / コウチュウ目：ヒメカメノコハムシ、ヒメアカホシテントウ / ハチ目：ニホンミツバチ

【クモ類】ササグモ科：クリチャササグモ / カニグモ科：キハダカニグモ / エビグモ科：キンイロエビグモ / ジョロウグモ科：ジョロウグモ*

【植物】草の花 アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ / オオバコ科：オオイヌノフグリ / シソ科：ホトケノザ / キク科：チチコグサモドキ、オオジシバリ、ノボロギク、ノゲシ、セイヨウタンポポ

木の花 ツバキ科：サザンカ / ウコギ科：ヤツデ

木の実 クスノキ科：シロダモ / ツツラフジ科：アオツツラフジ / バラ科：トキワサンザシ / アサ科：エノキ / ウリ科：カラスウリ / カバノキ科：ハンノキ / アカネ科：ヘクソカズラ / モクセイ科：トウネズミモチ

1月の観察アルバム

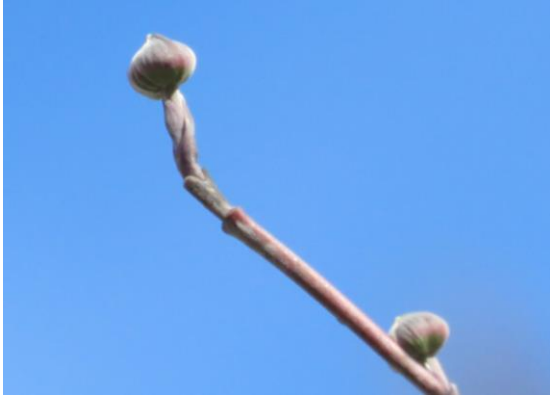


今回のテーマは「冬を生き抜く！」でした。この日は暖かい日差しの中で、カワセミやオオジュリンなどを近くでじっくりと見られました。また、植物では地面に葉を放射状に広げたロゼットや地下に栄養をたくわえる鱗茎、動物では卵鞘やさなぎなど、冬を生き抜くためのさまざまな姿を観察しました。



今月の案内人

伊東茂子さん・湯瀬一栄さん



①アメリカヤマボウシ（ハナミズキ）の冬芽



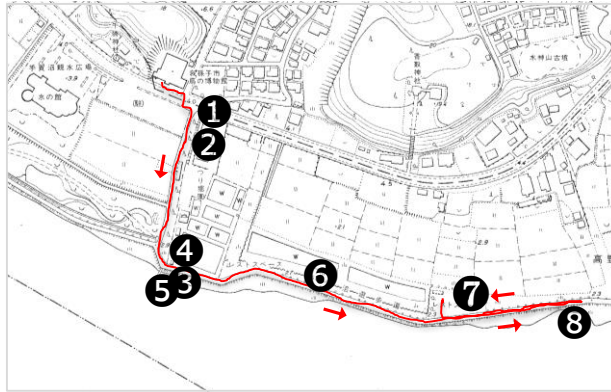
②ノゲシのロゼット



③ヘクソカズラの実



④樹皮の裏に隠れていたキンイロエビグモ



歩いたルートと観察した生き物



⑤ヨシにとまっていたカワセミ



⑥タマネギと同様に、地下に鱗茎をつくるノビル



⑦オオカマキリの卵鞘



⑧ヨシを剥いて、餌を探すオオジュリン

今月の鳥 ジョウビタキ（スズメ目ヒタキ科）

この鳥は、翼に1対の白い斑があるのが特徴です。「紋付鳥」とも呼ばれ、その姿はお正月の羽織袴を連想させます。渡り鳥は冬を生き抜くためにより温暖な地域へと移動しますが、この鳥はロシアや中国などから日本に飛来して越冬します。手賀沼周辺では毎年10月末ごろになると、ヒッ、ヒッ、というこの鳥の甲高い鳴き声が聞かれるようになり、公園などの緑地や人家の庭で姿が見られます。春のウグイスほど有名ではないものの、鳥好きの間ではこの鳥が冬の訪れを告げる風物詩として親しまれています。その一方で、近年は春から夏にかけて、この鳥の繁殖が長野県や鳥取県などの一部で報告されるようになってきており、1年中見られる地域も出てきています。手賀沼周辺では3月下旬から4月上旬頃に北へ帰ってゆきます。この鳥はなわばりを作り、同じ場所をよく見かけますが、桜が咲く頃になると、いつしかひっそりと姿を消します。



ジョウビタキのオス